

8月4日(土) 午後1:30～4:30 (受付1:00～)

全体会・シンポジウム

福島で生きるということ

「私たち福島県民は、故郷を離れる者も、福島の地にとどまり生きる者も、苦悩と責任と希望を分かち合い、支えあって生きていこうと思っています。私たちとつながってください。」

—— 昨年9月の「さようなら原発5万人集会」のスピーチで共感の輪を広げた武藤類子さんは、住民や避難者の人権と健康を守る活動を続けてきました。そして6月11日、福島原発事故の責任を問う「福島原発訴訟団」1324名による告訴状を提出しました。

「福島が放射能で汚染された状態が続くなら、5年でも、10年でも、30年でも、期限を切らずに、もとの状態になるまでその間は動けるように選択の権利とゆとりがほしい。」

—— 家族を避難させた後、福島にとどまって、子どもの避難・保養のプロジェクにに取り組む吉野裕之さん。今年の2月には、福島で保養・避難の相談会(放射能からいのちを守る全国サミット)の開催にもかかわりました。

福島で生きるということをみつめてこられたお二人に、今感じていらっしゃることを、これから何が必要とされているのかを語っていただき、その話をうけて会場のみなさんと共に、「自分たちにできることはなにか」を考え、それぞれの場で一歩を踏み出す足がかりにしたいと思います。

会場：第2研修室ホールA・B
参加費：1,000円(福島の方、学生 500円) 定員：100人

お話：武藤類子さん／吉野裕之さん
コーディネーター：白崎一裕さん
(ベシクインカム・実現を探る会・栃木県那須地区在住)



武藤類子(むとう・るいこ)さん

1953年、福島生まれ。福島県三春町在住。
チェルノブイリ原発事故をきっかけに脱原発の運動にかかわる。
原発に依存しない暮らしを考えたいと、長年勤めた養護学校を辞めたのを機に「里山喫茶燦」をオープン。「ハイロアクション福島原発40年実行委員会」で、福島第一原発1号機が稼働40年になる2011年3月から1年間のアクションを準備していた。その矢先に事故が起こり、「燦」も閉店を余儀なくされた。「福島原発訴訟団」団長。
*「We」176号でロングインタビュー掲載。



吉野裕之(よしの・ひろゆき)さん

1966年、福島生まれ。福島市在住。
昨年4月に文科省が出した年間20ミリシーベルトまで子どもの被ばくを容認するという通知に、県も国も守ってくれない、自分たちで動かしなないと、「子どもたちを放射能から守る」の一点で集まった「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク(子ども福島)」に参加。
子どもたちの被ばく最小化の取り組みを国や自治体、東京電力などに働きかけている。
保養班の世話人を務め、子どもたちを少しでも外に出す機会をつくれなかと試行錯誤を続ける。
*「We」177号でロングインタビュー掲載。

<交流会> 5:00～6:00 全体会終了後、同じ会場で参加者の交流会を予定しています。



柚木ミサトさんと「あかいつぶつぷの絵」：
あかいつぶつぷは、放射能を表しています。画家の柚木ミサトさんによって描かれた「あかいつぶつぷの絵」は、多くの「放射能から子どもたちを守る活動」に活かされています。坂内智之さん著作『放射線になんか、まけないぞ!』のわかりやすいイラストも柚木ミサトさんの手によるものです。

8月5日(日) 午前9:30～12:00 (受付9:00～)

参加費：1,000円(福島の方、学生 500円)

分科会 1

いま、いのちを守るために(保養・避難)

講師：佐々木道範さん(Team二本松 理事長)
FoE Japan (国際環境 NGO)
沖縄・球美の里いわき事務局 (予定)
会場：4F・第2研修室ホールA 定員：60人

線量の高い地区の地域住民を支援し、行政に「避難の権利」を求めるとともに、土湯温泉での親子短期保養プログラムの試みをしてきたFoE Japan(国際環境 NGO)、チェルノブイリの保養所をモデルに久米島での長期保養を企画している沖縄・球美の里事務局(予定)、福島・二本松で放射能測定室を立ち上げ、子どもたちを放射能から守る活動を続ける佐々木道範さんの報告を受け、いま、いのちを守るために何ができるのかを話しあいます。



分科会 3

放射線の授業をつくる

講師：坂内智之さん(『放射線になんか、まけないぞ!』著者、郡山市立小学校教員)
会場：4F・第2研修室ホールB 定員：50人

文科省が放射線の授業用に作成した副読本への批判が高まっています。では、学校は放射線の授業をどのように進めたらよいのでしょうか。この分科会では、福島県郡山市の小学校で放射線の授業に取り組む坂内智之さんに、授業の様子、子どもたちや学校の現状を話していただきます。横浜での授業実践の報告もあります。子どもたちに放射線をどう教えていくのか、学校は放射線とどう向き合うのか、参加するみなさんで考え、話し合みましょう。

分科会 5

若者の視点でみた「ふくしま」

ゲスト：大内裕和さん(中京大学)
佐藤あゆみさん(岩手大学3年)、橋本葵さん(福島大学3年)
会場：4F・第4研修室 定員：25人

若者の急激な貧困化の背景や構造について大内さん、岩手と福島の大学で学ぶ佐藤さんと橋本さんに現状をお話いただきます。3人の報告を踏まえ、「ふくしま」とそうでない地域にくらす若者はどのようにつながることができるのか...などについて参加した人たちと話を深めていきたいと思います。

分科会 2

米の放射能汚染ゼロへの挑戦
天栄村の安全でおいしい米づくり

講師：吉成邦市さん(天栄米栽培研究会)
会場：5F・第5研修室 定員：32人



福島県天栄村では5年前に米づくり日本一を目指して「天栄米栽培研究会」を立ち上げ、3年間連続で全国コンクールの金賞受賞者を出していました。原発事故に見舞われ、作付を断念せざるをえないかと思われた状況の中で、事務局長の吉成邦市さんは仲間と共に放射性物質を土壌から作物に移行させない研究に取り組み、カリウム、セオライト、ブルシアンブルーなどを用いて、セシウムゼロのお米の収穫にこぎつけます。2011年12月にNHKのETV特集で放映され反響を呼んだ取り組みです。

分科会 4

被災地で深刻化する高齢者の認知症 — 今だから寄り添って癒しと笑いで生きる力を取り戻そう!

講師：高林実結樹さん(NPO法人認知症予防ネット)
会場：4F・第3研修室 定員：50人

認知症予防の第一は楽しいことです。認知症を発症した人は「楽しい」思いから遠ざかり、笑いを忘れたつらい毎日を送っておられます。その人達がトキメクような「楽しい」時間を取りもどし、「優しさのシャワー」の中で「自分は見捨てられていない」と感じられるとき、認知症からの引き戻しが可能になります。「認知症予防・ケアゲーム」のルールは簡単で、何より楽しく、自然に笑いが溢れます。手指や体を使って脳の種々の分野を同時に使うので脳が活性化し、やる気が出て希望が生まれます。ひととき笑って一歩、また一歩進みましょう。



8月5日(日) 午後 オプションルツアー

●天栄村を訪ねて... **要予約**
米の放射能汚染ゼロに取り組んだ天栄村を見学し、生産者の方からお話をうかがいます。
参加費(バス代含む)は約3,000円、18時頃郡山駅にて解散予定。

●福島県立美術館を訪ねて...
全国を巡回した「ベン・シャーン展」は7月16日で終了し、当日は作品を見られませんが、ベン・シャーン作品の調査研究を続けてこられた学芸員の荒木康子さんに作品のスライドを見せていただきながらお話をうかがいます。3.11後の福島県美の取り組みについてもうかがう予定です。閉館時間の17時に現地解散。
*交通費などは実費負担です。